陣容一新の臨報團[[1]](#footnote-1)

役員は全面的に改選　　新設婦人部も街頭へ

團の先として活しつつあつた報國では、時の迫とに々その社會重要を増し、かねて決制に應すべくの整につとめてゐたが、大東開をに十九日次のく役員の決定を見、たる人の結成も同時に實現された、新發足の同團人では先づ最の事として二十七日午後一時から府大で人大會を開

現在の團員ならびに新たに團員となつた女子、および本團の役員を糾合して（一）戦時下生活刷新運動（二）軍需資材献納運動協力の二項目について、具體的な方法その他協議決定するほか更に同日午後六時からは同所で婦人決戰大演説會を開催する。同夜の演氏は香山光郎、松村紘一、安興晟煥、□淑宰、朴□大、金活蘭、高□□、毛允淑、崔貞熙の九氏で、いづれも□□平和確立の大道を邁進する日本の女性として如何に生くるべきかについて烈々たる議論が展開されるはづである。

の整を行した報國並に人の速なる活ぶりは早くもを以てへられてゐるが、新役員は左記の通りである

　專任理事　安興晟煥　▲總務部長　高□興雨　▲總務部員　安興晟煥、沈□燮、李容愼、金子根□　▲事業部長（兼）安興晟煥　▲事業部部員　朱耀翰、張勉、趙基□、呉龍鐸、金善、毛允淑、田村芙紀子　▲戰時生活部長　香山光郎　▲戰時生活部員　具滋玉、林孝貞、金東煥、李晶□、崔貞熙、金善、朴□愛

1. 1941年12月21日付『京城日報』朝刊 [↑](#footnote-ref-1)